



2011
誠意工夫

調和から生まれるコミュニティをつくろう

Free

この広報誌
は無料です

SUITA JC PRESS

公益社団法人吹田青年会議所広報誌

NEW YEAR GREETINGS
年頭のご挨拶

誠意工夫

調和から生まれるコミュニティをつくろう

公益社団法人吹田青年会議所 第42代理事長 堀田 誠

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、輝かしい2011年の新春をつつがなくお迎えになられたこととお慶び申し上げます。平素は私たち公益社団法人吹田青年会議所の運動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、本年度公益社団法人吹田青年会議所は、相手の立場に立って考え、そして「誠意」を持って行動する、即ちまごころを尽くして人々と接しながら、私たち青年の柔軟な考え方と、新しい発想で常に「工夫」を重ねていく青年会議所運動に励んでまいります。

将来に対して不透明感が漂う現代社会を打破するべく、あらゆる世代、あらゆる方々と今まで以上に連携し、未来へ希望が繋がるコミュニティを構築します。そして「持続可能なまち吹田」のその先を目指し、「誠意工夫」～調和から生まれるコミュニティをつくろう～をスローガンに掲げ、会員一丸となって日々精進するとともに、諸先輩方から受け継いだ歴史と伝統、そして多くの団体の皆様とのつながりを継承して活動してまいります。今後ともなお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

吹田市
市長 阪口 善雄

新年あけましておめでとうございます。

吹田青年会議所の皆様には、平素より市政各般に格別のお力添えをいただいております。また、とりわけ昨年は、吹田市制施行70周年という大きな節目に際し、様々な記念行事等の取り組みにも多大なご尽力を賜り、厚くお礼申し上げます。

本年は「誠意工夫～調和から生まれるコミュニティをつくろう～」をスローガンとされ、人と人との調和、心と心のつながりを生み出すような活動を展開されることで、誠意と工夫にあふれる取り組みに、ご期待申し上げます。

本市におきましても、市の将来像「人が輝き、感動あふれる美しい都市(まち)すいた」の実現に向け精一杯取り組んでいるところでございます。今度とも、皆様のお知恵、お力をお借りしながら、本市がさらに輝かしい歴史を重ねていけるよう努めてまいりたいと存じますので、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年も、皆様のさらなるご健勝、ご活躍を祈念いたしまして年頭のご挨拶とさせていただきます。

明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、お健やかにて新年をお迎えの事と存じ上げます。

さて、国際的組織である青年会議所は、昨年11月に大阪国際会議場において6日間にわたりJC I 世界会議大阪大会を開催し、海外からも4000名余の会員が参加するという大イベントを挙行されました。

インターネットが代表するように瞬時にして情報が世界を駆け巡るグローバル化した現在、国家、人種、宗教を超えて共通した目的意識を持って集う青年会議所の活動は、この時代になってますます重要なものとなりつつあります。

最近でも一企業、一国家の金融不安が全世界を揺るがす経済危機を招きましたし、絶え間なく持ち上がる国境紛争や宗教の闘争、人種間の殺戮などが世界平和に影を落とし続ける現在、目的を同じくした理念と活動目標を持ってそれぞれの国、地域で展開するJC活動に大きな期待を寄せています。

国や、国際組織では成し得ない市民感情に立っての、市民運動や地域活動を積極的に展開され、平和と繁栄する社会を構築し、人間の自由と個性が尊重される明るい社会を目指し活動を続けられん事を希望いたします。

吹田青年会議所の更なるご発展と、会員諸君のご健勝を祈ります。

吹田JCシニアクラブ
会長 瀧川 紀恒

What's JC?



自由な社会と経済発展を実現し、新しい社会をリードするにふさわしい人材育成を目的として、1915年にアメリカ・ミズーリ州セントルイスに生まれた小さな青年活動グループから始まり、今では、会員数17万人以上の世界で最も大きな団体です。1949年、明るい豊かな社会の実現を理想とし、責任感と情熱をもった青年有志による東京青年商工会議所（商工会議所法制定にともない青年会議所と改名）設立から、日本の青年会議所（JC）運動は始まりました。

共に向上し合い、社会に貢献しようという理念のもとに各地に次々と青年会議所が誕生。1951年には全国的運営の総合調整機関として日本青年会議所（日本JC）が設けられました。

現在、全国に708の青年会議所があり、三信条のもと、よりよい社会づくりをめざし、ボランティアや行政改革等の社会的課題に積極的に取り組んでいます。さらには、国際青年会議所（JCI）のメンバーとして各国の青年会議所と連携し、世界を舞台として、さまざまな活動を展開しています。



What's SuitaJC?

公益社団法人吹田青年会議所とは？

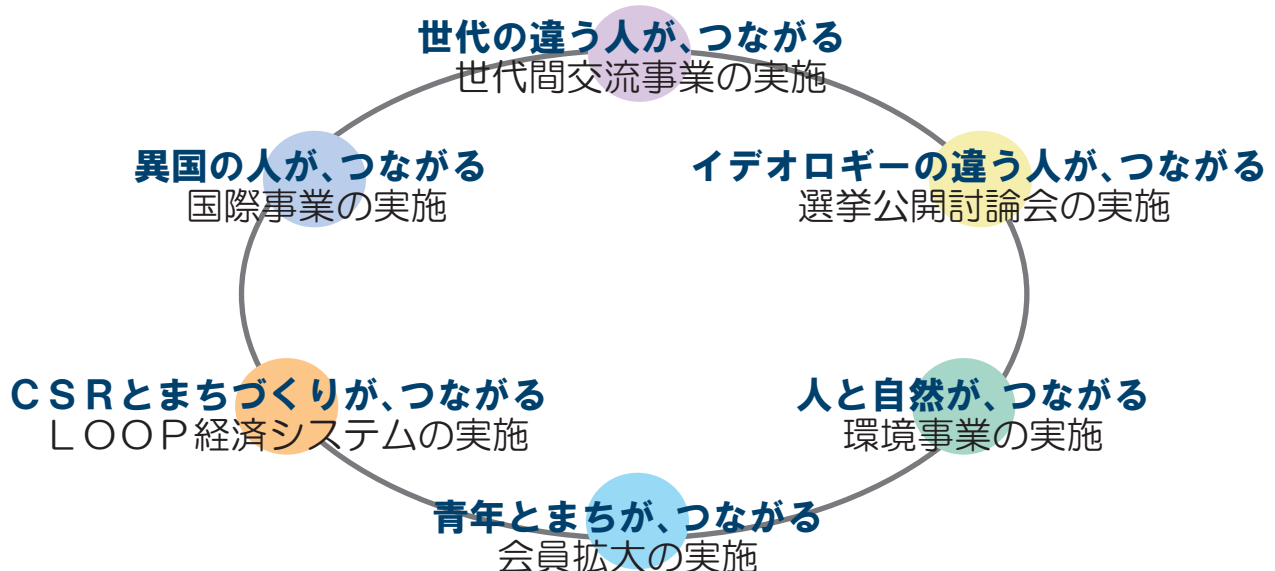
1970年日本万国博覧会の年に、全国で436番目に吹田青年会議所として吹田の地に誕生し、社団法人格を経て2009年に公益社団法人格を取得しました。青年としての英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会を築く為、公益性のある事業を行いながら、地域資源（まちづくり・ひとづくり・環境・経済・教育等）の創造しています。

45周年に向けた中長期ビジョン

2014 The Sustainable City その先へ

持続可能なまち、その先に生まれてくる変化を、 あらゆるつながりではぐくむ吹田へ

あらゆる“異”がつながる、そこに心が通じる、そんなとき吹田は、持続可能性のあるまちの、その先の社会を感じ始めるのだと信じています。





公益社団法人吹田青年会議所
第42代理事長 堀田 誠

conversation

理事長×吹田市長対談



吹田市長
阪口 善雄

理事長 旧年中はたいへんご尽力いただきましてありがとうございました。今年もよろしくお願いたします。また、市民手作り事業として、吹田市施行70周年記念事業に際し、我々のD-Suita事業を行うにあたり、運営面でもご協力いただきましてありがとうございました。みなさんに非常に好評で、今年もこれを続けていこうと思っております。

市長 D-Suitaでは、「すいたん」というお金を使って、子ども達が世の中の仕組みを学んでいましたよね。どれくらいの方が参加されたのですか？

理事長 吹田市の教育委員会のご協力をいただきまして、吹田市の全小学校にチラシを配布できた効果もあつたり、ご兄弟のお申込みもありましたので、応募の段階で900人以上でした。我々吹田青年会議所は「まちづくりは、ひとづくり」を合言葉にずっと活動してきました。ところで、市長の「ひとづくり」という視点から、まちづくりについて、どのようにお考えですか？

市長 「ひとづくり」は、ダイレクトにできるものではなく、風格のある「よいまち」を築けば、よい人が集まってくるのではないかと考えています。ですから、吹田を「よいまち」「美しいまち」にしたいと日々思っています。例えば、まちが汚ければ、タバコの灰を捨てる人も増えるけれど、美しいまちであれば、そんなことはないですよね。きれいな清潔なまちにすれば、いい人が集まってくるのではないのでしょうか。また、人だけではなく企業も集まってくるんじゃないでしょうか。やはり、安心安全のまち、感動と感激のあるまち、これに尽きると思います。吹田市は、市民病院もあり、救命救急を含め医療環境が充実しています。ドクターカー、ドクターヘリもあり、高度医療機関も整備されているため、重篤な急病にも迅速に対応できます。また、多くの公園があって自然環境も素晴らしいですし、交通の便など都市機能も高い。これは安心安全のまちだといえます。

また、京都の哲学の道ではありませんが、思索しながら歩けるような道もあり、考えることができるまちともいえます。スポーツ施設も整っています。そういう意味では、企業家の方にも、ここで仕事がしたい、企業活動がしたいと感じていただけるまちだと思っています。さらには、マンパワー、つまり人材が豊富で、人脈のつながり、ネットワーク化も非常に進んでいるといえます。環境の面においても、市民環境会議、シニア環境大学などの活動が熱心に進められており、多くの人材が育っています。マイバッグ持参運動、廃油収集活動、アジェンダ21吹田による様々な取り組みなどが実績を上げています。文化の面でも、浜屋敷、西尾邸、中西邸を中心に「まち案内人」に活動していただいております。そうしたバックボーンもあって、観光センターを作ったり、吹田商工会議所に「にぎわい観光協会」を設立していただくことができました。

子育て世帯にもくらしやすいまちでもあります。保育園や幼稚園が多くあり、子育て中の親が交流できる「子育て広場」も多くありますし、子育て・青少年支援の核として山田駅前に建設中の拠点施設が春には完成します。一方で、高齢者が楽しく集えるようなふれあいの場もあります。吹田市には、いろんなジャンルにおいて、施設や景観だけではなく人材も揃っています。そういう意味で、三拍子が揃っているまちともいえます。「安全なコミュニティ」「安心

の福祉医療」「安定したくらし・働き」「安寧なる市民生活」「安穩なる地域社会」といったよいまちをつくれれば、そのまちに相応しい人が集まってくる。そして、その人たちが、まちづくりの担い手となって、さらによりよいまちになるという循環型のまちづくり、ひとづくりをめざしていきたいと考えています。

理事長 私たちも吹田をよいまちにしたいという思いから、今年「誠意工夫～調和から生まれるコミュニティをつくろう～」をスローガンに掲げて、がんばっていかうと思っています。誠意工夫という言葉は造語でして、私たち青年の柔軟な考え方のもと、まちづくりにおいて、常に新しい発想で工夫をし、誠意を持って青年会議所運動に取り組めば、必ずこの吹田のまちがより健全に発展するんだという思いを込めた言葉です。このスローガンのもと一年間、青年会議所運動に邁進していこうと思っています。例えば、子どもは子ども、お年寄りはお年寄り、世代同士の交流、横の関係はあるのですが、他世代の交流、縦の関係をもっと築いていかなければならないのではないかと感じています。私たちは20代から40代の集まりで、ちょうど中間層に位置しますので、あらゆる世代の橋渡し、架け橋役になって、調和を生み出していきたいと思っています。

市長 「調和」といいますと、古いもの、いわゆる伝統と、新しいもの、グローバルなものとの共存調和や、人と自然、都市と地球との共存調和、お互いの「違い」を認めていくという多様性の共存調和など、いろいろな観点があると思います。

理事長 市長のおっしゃるとおりです。最近、そうしたいろんな調和、つながりが希薄になっているとしか思えないのです。例えば、お隣がうるさいからといって、役所に電話をされたりする方もおられます。言いたくないようなことを他人に任せて、自分は逃げてしまったり、他にも事なかれ主義であったりと、自分さえ良ければいいといった風潮になってきています。

市長 地域のつながりが希薄になっていることには、私も危機感を持っています。昔は、いわば路地裏の温もりともいうような、家族や近隣どうしの助け合い、励まし合い、相互扶助といったつながりがありました。私は、今の日本から消滅しかけている温もりある地域社会を取り戻していきたいと考えています。温かな交流のある地域コミュニティを再構築し、皆様に、地域をもう一度見つめ直す、つまり地域の再発見、吹田の再発見をしていただければ、と思います。そのため、市制70周年を機に「地域の芸術祭」にも取り組んでいます。

理事長 家族や近隣どうしの助け合いといえは、私の子どもの頃は、まだ家の周辺は竹やぶで、竹の子が採れたときは、ご近所の方々に差し上げたりして、みんなで幸せを分かちあったものです。

市長 そのような絆といえますか、家族の温もり、そして、路地裏の温もりを取り戻し、まち全体が助け合う、互助の地域協働社会の再構築ということが私のメインテーマとも考えています。昨年は、子どもへの虐待、100歳以上のお年寄りの安否不明の問題などがありました。こうしたことは、家族や地域のつながりがあれば防げるものです。今は、例えば地域の方が子育てについて何か進言したとしても、親など身内が聞く耳を持たない、といったように、つながりが枯れた、いわば「無縁社会」になってしまっています。その無縁社会をどうするのか、絆の再生をどうしていくのか、という今の日本社会が抱える悩み、課題を解決するためには、やるべきことがたくさんあると思っています。

理事長 そういった無縁社会は地域の問題だけではなく、対諸外国においても、顕著になっているのではないかと危惧しています。昨年のチリの鉱山事故でも、日本の土木技術は世界一で、日本のトンネル技術であれば600メートルほどの穴はすぐに掘れ、あんなに何ヶ月もかからなかったはずなんです。日本が、昔からあった思いやりの精神を失っていないければ、すぐに行動していたのではないのでしょうか。しかし、行動に移さなかった。私は、今でも日本の政府がゼネコンを使ってでも、他を思いやる精神を持って、すぐに行動を起こすべきだったと思っています。そうすれば、本来日本が持っているはずの思いやり精神だけではなくて、日本の技術を世界にアピール



できたはずなんです。そういう意味においても、日本の将来は本当に心配でなりません。

市長 確かに、日本の将来は本当に心配です。根岸英一さん、鈴木章さんがノーベル化学賞を受賞されましたが、これから先の日本からはノーベル賞を受賞するような人材が出てこないかもしれませんね。オリンピックなどスポーツの世界でも弱くなっていくかもしれません。また、海外へ留学する学生も少ないらしいですね。これから、お金をかけてでも教育を充実させていかなければなりません。

理事長 教育といえば、昨年の私たちの事業「知ろうよ！吹田」でお世話になった川崎和男教授（大阪大学）もおっしゃられていたのですが、日本が最先端を走っていたはずの医療分野においても中国や韓国が日本に追いついてきているそうです。話題の事業仕分けで、今やっている開発を止められ、最先端の研究も止まっているそうです。

市長 やはりトップランナーをめざす姿勢は大事ですよ。韓国の順天市と交流を始めようと思っており、順天の市役所の部長さんや課長さんともお会いしましたが、日本の松下政経塾や竹中平蔵さんなどの本を読んでおられるなど、非常に勉強熱心で、がんばっていらっしゃる印象を受けました。

理事長 そういえば、地域の絆が強い都道府県の方が学力も上がるというデータもありましたよね。

市長 吹田市の子どもは大阪府内でも高い学力を誇っています。これは、学校の先生方もがんばっておられるし、ご家庭でも子どもの勉強に対し熱心な親御さんが多くいらっしゃるという証明ではないでしょうか。

理事長 私たちも、もっとがんばらないといけません。私たちは、青少年関連事業として、一昨年からD-Suita事業を行っています。一昨年は日本の高校生や香港・中国の学生を対象に旭町商店街の空き店舗を利用して、企画・運営から営業まで学生自身で行いました。これは、青少年育成や地域活性化、そして国際交流が狙いであり、職業体験や海外の学生との交流を通じて、将来の自分の夢を持つとともに、未来に対する夢もしくは希望を大きくして欲しいという私たちの想いがありました。そして、昨年度は小学生を対象に、職業体験だけではなく、子ども達に感謝の気持ち、人を思いやる心を育てて欲しいという想いを込めて、事業を実施しました。昨年は市制施行70周年の記念事業として、吹田市には大きなバックアップを頂き、感謝しております。本年度もまちの将来を担う青少年に対して、想像力や創造力を高め、この吹田を郷土として愛する心をはぐくむ事業を、他世代の方々にも協力して頂き、更なる発展を目指して展開しようと考えていますので、本年度も行政としてのバックアップをして欲しいと願っております。

市長 そういった、素晴らしい取組はぜひ継続してやっていただきたいですね。市としても協力できればと思っています。

理事長 今年は、D-Suita事業も3年目ということですので、ホップ、ステップ、ジャンプできるように、他世代の方も巻き込んで発展していきたいと思っています。

市長 子ども達が夢や目的をもって、何かに取り組むことはとても大事ですね。日本の子どもは、大きな夢や希望、抱負を持っていない、といったような調査結果もあるようです。青年会議所さんには、今後とも、子ども達が夢を持てるような事業に取り組んでいただければ、と思っています。

理事長 先ほどのチリの問題に戻りますが、日本の技術で救出できていれば、子ども達にも「日本の技術はすごくて、こういう人助けもすることができるんだよ」と話もできるのではないのでしょうか。世界に何か自慢できるようなものがあるからこそ、世界に何かを発信できるのだと思います。もしかしたら、大人や今の日本に何か自慢できるようなものがあれば、いいのかもしれません。

市長 日本が自慢できるものが何なのか、改めて見直した方がいいのかもしれませんね。得意な分野として、持続し得るものは何なのか、考える必要があるでしょう。また、日本の伝統を再認識し、子ども達に伝授、継承していくことも、もっとやっていかなければならないと思います。市では、NPOなどの協力を得ながら、伝統文化、伝統芸能、伝統工芸の子ども向け教室をやっています。地に足をつけ、基本の部分を大切にしながら、ボトムアップしていければ。足場が無い状態で、世界を見ていても宙に浮くだけです。きちっとした足場ができるような社会教育、地域教育が必要なんです。

理事長 今まで以上に、青年会議所だけではなくて、NPOや企業の方々がネットワークを組んで、やっていかなければならないことだと思います。

市長 最近、地域に目を向けてくださる企業も多いですね。

理事長 そういう企業が多ければ、子ども達も誇りになるでしょうし、郷土愛が生まれるのだと思います。吹田は企業の強い産業経済のまちですし、今まで以上に期待が持てるのかもかもしれませんね。

市長 本市が開設したジョブカフェの職業紹介を通じて、企業が地元の方を採用するということも動きもあり、嬉しく思っています。工業の売上高は、やはり町工場が多い東大阪市には負けますが、卸売業の売上高では、吹田市は大阪市に次いで大阪府で2番目になります。堺市や東大阪市よりも上位なんです。また、起業率も高いです。ニュータウンがあることから、住宅都市あるいは文教都市のイメージが強いですが、企業の強い産業経済のまちでもあります。

理事長 確かに、吹田は本当に企業が強いと実感しております。D-Suitaのときも、多くの企業からバックアップをいただきました。そういったものも、つながり、調和から生まれるものなんじゃないかな。市長は、他にどういった部分に目を向けていらっしゃいますか。

市長 橋下知事もがんばっていらっしゃいますが、日本の政治の枠組みを変えていかなければならないと思います。やはり政府は外交、防衛、安全保障、金融などの課題に特化、集中し、内政は地方に任せざるべきだと思います。そういう風にしていかないと、世界に立ち向かえるような政治はできないでしょう。私は道州制を視野にいたした地方分権、地域主権の改革が大事だと考えています。内政を地域に任せれば、地域が独自性を発揮でき、活性化していくのではないのでしょうか。青年会議所がめざしておられる「まちづくり」の原点は地域主権にあるのではないかと考えています。地域主権の実現のためには、私たち行政だけではなくて、青年会議所の皆さんのような方々にももっと声を上げていただきたいですね。今後、国のあり方がどうあるべきかということについて、働きかけてほしいと思っています。

橋下知事は、都構想の中で、区制にするとということもおっしゃっていましたが、大阪府に隣接している市が、すべて区にされると、吹田市も「吹田区」、つまり大阪市の一部となり、自主性や自律性が弱まってしまっていると感じています。固定資産税や住民税といった税源も、都が管理し区に配分するというようなことになると、なかなかきめ細かいことができなくなるのではないかと考えています。

理事長 道州制については、3、4年前から、あらゆる青年会議所の大会で道州制のフォーラムなどを開催しているのですが、まだまだ私たちの勉強不足だと痛感しております。とはいえ、やはり人の集合体が地域であって、地域の集合体が国家になっていくのではありませんか。地域、そして一人ひとりの意識は非常に大事になってくるのではないのでしょうか。

市長 国政は国益、そして私たちが担う地方行政は地域益、市益を大切にすると、ということになってくると思っています。そして、関西州という大きな枠組みを視野に入れながら、役割分担のあり方を考えていくことが大事だと思います。

理事長 今年は、お話をさせていただいたように、『誠意工夫～調和から生まれるコミュニティをつくろう～』をスローガンに掲げ、誠意という思いやりの心であったり、真心を前面にすべての活動において打ち出していきたいと思っています。あと、青年らしい、青年ならではの柔軟な考えをもとに、常に新しいアイデアで工夫をし、活動していきたいと思っています。どうぞこれからもよろしくお願いたします。本日は本当に貴重なお時間を難うございました。





WORK INTRODUCE 2010事業紹介



サッカーフェスタ

昨年も吹田市総合運動場で恒例の「子どもサッカーフェスタINすいた」が開催されました。午前はわんぱくサッカー。学年別にチーム分けをしてミニゲームを行い、ボールを追いかける子ども達の目は真剣そのもので、グラウンドを元気に駆け回っていました。また午後からはガンバ大阪のコーチから指導を受けるサッカー教室やガンバ大阪の選手のサイン入りグッズなどが当たる抽選会があり、グラウンドは子ども達の笑顔と夢で溢れていました。参加された子ども達の中から未来のJリーガーが誕生するかもしれません。



あつまれ！吹田のエコチエ & 小池百合子氏（元環境大臣）の特別講演

8月7日に吹田市文化会館にて「あなたが選ぶ吹田のエコチエ大賞」と小池百合子氏特別講演「日本と地球の守り方」を開催いたしました。

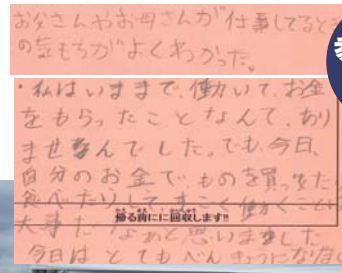
「エコチエ大賞」は新しいライフスタイル(エコチエ)を一般公募し、一次審査を通過したもののから、最優秀作品と優秀作品を会場の皆さまに選出して頂きました。なお、選出された作品は、吹田ケーブルテレビでCM放送されました。また、クールビズの発案者である小池百合子氏に、これまでに行ってきたクールビズ運動などに代表される環境への取り組みだけでなく、これからの環境への取り組みについて熱く語って頂きました。



D-Suita こどもが主役のまちキッズタウン

8月7日に吹田市役所にて子ども達だけで運営する小さなまち「キッズタウン」を作り、まちの中で仕事をして「すいたん」(当日まで使えるお金)を手に入れて、食事をしたり、ゲームをしたりして、お金を使うことにより社会の仕組みを学んでもらいました。

参加した子ども達も最初は要領が分らず右往左往していましたが、時間が経つにつれて、システムにも慣れスムーズにまちが回転し始めました。なお、アンケートでは、9割以上の児童から、ぜひまた参加したいとの回答を頂きました。



参加者の声



参加者の声

吹田市は施設が充実していると思うので、それを利用して、大人と子ども、地域の人々との交流の場として活用する具体案などが聞けてよかったです。

子供の教育悪化は大人の対応に問題あり
様々な地域コミュニティを大切にすべし

知ろうよ！吹田

4月27日、「知ろうよ！吹田」が開催されました。第1部では「創造力・想像力のある子どもを育てる」と題して、大阪大学大学院教授の川崎和男氏に、ご自身の生い立ちを振り返っての子育て方法等について講演して頂きました。また、第2部は、「これからの吹田」をテーマに、川崎氏と阪口善雄吹田市長、玉井真理子氏、山本光平氏、乾実千穂子氏、高橋弘幸氏をお迎えし、当会理事長と共にパネルディスカッションを行い、これからの吹田における子どもの教育と地域の関係について、様々な立場からユニークな意見が出て、大変盛り上がりしました。

参加者の声

世界を変える!!! キラ☆
日本を変える! キラ☆
キラ☆



中高生とまちを変えた物語

舞台づくりを通して、歴史を学び、地域への誇りや愛情と親や周りの人への感謝の気持ちを素直に子ども達に感じてもらうため、中高生とまちを変えた物語と題して世代間交流事業を行いました。8月8日のメシアターでの舞台『鬼鷲〜琉球王尚巴志伝』(主催:吹田市、吹田市教育委員会)の前座出演に向けて、さまざまな世代の人たちの協力を得ながら、一生懸命練習し、子ども達の上達振りは目を見張るものがありました。そして本番は、練習以上の演舞を披露することができ、観客から多くの拍手を頂き、子ども達の目の輝きを変えることで大人も変わることができました。

「子育てお悩み解決講座」 ～親が変われば子どもも変わる～

8月7日に親学推進協会の杉本哲也氏をお迎えし、「前向きで自主性を備えた子どもを育てるための親としての接し方や考え方」をテーマに講座を開催いたしました。

自主性をもった子どもを育て、家庭での親としての考え方や子どもとどのような関わり方をすればよいかをグループワークを中心に学びました。講演終了後、親学アドバイザーの方の「子育て個別相談」も行いました。



参加者の声

親が、ポジティブになる事が、子供にとってすごく大事だと知りました。日記...是非、がんばってみたいわ。
私はまだ結婚もしていないのですが、今日のセミナーは普段の人間関係いしとて役立ちました。たくさん学びました。子育ても、人間関係の延長線なんだなと感じました。

「お線を書き、みて感じましたが、一つの方向からばかりの見方はおぼろしい感じがしました。子育ても、ちょっと違う方向から子供を見れば新しい発見があるかなと思えました。」



世界会議

当会は国際青年会議所(JCI: Junior Chamber International)の一員で、JCIは会員数17万人以上の世界で最も大きな青年団体であり、約250万人以上のOBもいます。各国の青年会議所と連携し、世界を舞台にして、さまざまな活動を展開できることは、青年会議所の魅力の一つといえます。また、毎年11月に世界中のメンバーが一堂に会する重要な国際交流の場である世界会議が開催され、昨年は大阪の地で行われました。



定例会

当会の正会員は、毎月最低一回は定例会を行い、そこで情報交換や運動の方向性を確認し合っています。なお、昨年は、柳生雄寛氏を講師に招き、自分のビジョンや考え方を伝える大切さを学ぶ講演会であったり、斉藤信悟氏を講師に招き、ソーシャルスタイル理論を用いて対人関係の円滑と自分を見つめ直す研修であったり、JCI副会頭のバトバヤル・ウルジゲルガー君を招き、JCIの国際性やアフリカに蔓延しているマラリアは蚊からの感染で発症するため、日本の私たちが他人ごとでは済まされないことを学んだり、ときには講師を招かずに正会員たちだけでディベートを行ったりして、自己のスキルを高めたりしました。

2011事業予定紹介 & 委員会紹介

当会は、今年も児童青少年健全育成事業として『D-Suita』を行うだけではなく、世代間交流事業や公開討論会事業などの多くの事業を計画し、未来へ希望が繋がるコミュニティから「持続可能なまち吹田」のその先へ進めるように、常に誠意を持ち、何事にも工夫する努力を惜みず行動してまいります。これらの活動は皆様のご協力がなければ、各々の目的を達成することはできません。今年も変わらぬご指導ご鞭撻を頂きたくお願い申し上げます。

委員会紹介

当会では効果的に明るい豊かな社会を実現させるために、委員会という組織を設置しています。

誠の絆委員会

当委員会は、市民・企業・団体・教育機関・行政をつなぐ架け橋となり、調和を図りながら、あらゆる世代間の人達との交流によって、市民、特に子ども達の自立性・主体性を培うことが出来る市民主体のコミュニティを創り、恒久的に市民と私たちがまちづくりの真のパートナーとなれる強い絆を結ぶような事業に取り組みます。

ハートリンク委員会

当委員会は、まちの財産となる子ども達に対して地域の人々とふれあい子ども同士のふれあう機会を作ることにより、自ら考え創造する力を養い、他人を思いやる心や尊敬する心をはぐくみ、「明るい豊かな社会」の実現につながる児童青少年健全育成事業に取り組みます。

例会運営委員会

当委員会は、「修練・奉仕・友情」という三信条に主題をおいた定例会創りを心掛け、会員同士の結束を目指すことで組織を活性化させ、明るい豊かなまちづくりの源泉となるように努めます。

公開討論会実行委員会

当委員会は、今年に実施される市長選を通して、市民がまちの現状を知り、立候補予定者のビジョンやまちに対する熱い思いを身近に感じ取ることで、市民のまちづくりに対する関心をより一層高め、一人でも多くの市民がまちづくりに参加する社会を築けるよう取り組みます。

会員拡大委員会

当委員会は、『未来の吹田』を心から考えられる新たな仲間を求めています。
『未来の吹田』に向かってリーダーシップを発揮してくれる仲間を求めています。
『未来の吹田』のために、社会全体の利益のために尽力してくれる仲間を求めています。

会員交流広報委員会

当委員会は、広報誌・ホームページを使って、市民に当会の事業や方向性をお伝えし、吹田のまちづくりの輪が広がるような広報活動だけではなく、会員同士の情報の共有化及び交流を図り、会員の絆を強めることにより、当会を活性化させるように取り組みます。

総務研修委員会

当委員会は、会員が積極的かつ効率的に青年会議所活動を行えるよう、総会、理事役員会等を正確・迅速に設営するだけではなく、全会員が一体となって活動し、会員相互及び関係諸団体との円滑なコミュニケーションを実現すべく、連携の中心となって行動します。さらに、当会が永続的に発展するために、会員一人一人の資質の向上を促すよう尽力します。

2014 The Sustainable City その先へ

□を並べ替えて下記の文章を作成してください

□□□は□□□□□□□□の□□である

1			2			3		4	5
		6			7		8		
9			10						
		11							12
	13			14		15			
16		17	18						
19			20			21		22	
		23		24	25			26	27
	28				29		30		
31				32			33		

横のカギ

- あつまれ！吹田の○○チエ
- 吹田市には、国の登録文化財である旧中西○○や国の重要文化財である旧西尾○○がある。
- 吹田市水道部のイメージキャラクター『○○すいくん』
- 吹田市文化会館 ○○シアター
- 関西圏の高速道路の要衝である吹田ジャンクションを擁し、名神高速道路、中国自動車道と○○自動車道が接続している
- 吹田の名前の由来は、川水の湿地を意味する『水田』から来たとする説や『○○田』が鋤田、次田と書かれるようになり、音変化したなど諸説がある。
- 江戸末期の住屋敷を再生した通称『浜屋敷』、吹田○○○○○○まちづくりセンター
- 1970年の大阪万博といえば、『人類の進歩と調和』。2005年の愛知万博といえば、『○○・地球博』
- 吹田市資源リサイクルセンター、くる○○ぶらざ
- 大阪万博で登場したが、いまだ実用されていない○○○○洗濯機
- 市の木は、○○○○
- 霧、月、星、○○
- 万葉集に収録され、伝説では垂水神社の滝を詠んだものとされる志貴皇子の歌『○○はしる垂水の上のさわらびの もえいずる春になりにけるかも』
- 昭和15年4月1日に○○吹田町、千里村、岸部村、豊能郡豊津村の4町村が合併し「吹田市」が誕生。
- 衆議院議員の選挙区は、摂津市と同じ第○○○
- 摂津国の通俗○○、摂津名所図会
- 青年会議所は、青年としての英知と○○○と情熱をもって、明るい豊かな社会の実現を理想としています
- 江戸時代に、吹田が京都の仙洞御所の御料地になり、天皇をはじめ皇族方にも召し上げて頂けるようにと献上されたという吹田くわいは、○○○の伝統野菜に選定されている
- 吉志部瓦窯跡がある○○○山公園
- 芸術家の岡本太郎さんが制作した太陽の塔には、過去・現在・未来の3つの○○がある
- 吹田の福祉巡回バス、○○○

縦のカギ

- タワー。万博記念公園にかつて存在していた高さ127メートルの展望塔
- 吹田青年会議所の正会員は、毎月一回○○○○会が集まり、そこで情報交換や運動の方向性を確認したり、自己のスキルを高めている
- 吹田市の北部に千里丘陵があり、○○○に淀川や神崎川などがある
- 昭和45年に制定された『吹田市民の歌』の歌詞の一部 「○○をそろえて そだてよ吹田」
- 神社は、国の重要文化財に指定されていたが、2008年の火災により全焼した
- として、大阪市、豊中市、箕面市、茨木市、摂津市がある
- 阪急梅田駅ではじめて設置され、大阪万博で全国的に知られるようになった「動く歩道」を大阪弁で言えば、○○○歩道
- アメリカンフットボールチームといえば吹田マーヴェイズ、サッカーチームといえば○○○大阪
- は、さつき
- 行基の布教道場であった常光円満寺は、○○○堂と呼ばれ、また足利將軍の菩提寺として深く信仰されていた
- 吹田市のイメージキャラクター『○○たん』
- 今の神崎川は、かつて○○○川と呼ばれていた
- 中高生と○○を変えた物語
- D-Suita ～こどもが主役のまちキッズ○○○
- 瓦窯跡は神亀3年（726年）に聖武天皇が着手した難波宮（後期）の造営に伴い、宮殿に使用する瓦を生産した窯である
- よ！吹田
- 2010年で4回を迎えた万博公園○○まつり。兵庫県泉粟市から○○を持ってくる。
- 泉殿宮の霊泉は、佐井の清水や垂水の神泉といっしょに吹田の三名水とされ、その○○水はビールに最適とされ、ビール会社が泉殿宮付近に進出した

New Members Wanted

メンバー募集

吹田JCは、より良い吹田の「まちづくり」「ひとづくり」を目指すために、元気はつらつとした新しい仲間を募集しております。

人の輪が広がる

社会に出て働き始めてから新たに一生の友にめぐり会えたでしょうか。様々な活動を通じて意見を交し合い、同じ目的を達成した時に本当の信頼関係が生まれます。

知識が広がる

様々な業種や境遇の青年の集まりです。考え方やものの捉え方、視点など自分の知識や視界を広げることが仕事や日常にも役立ちます。

まちへの愛着が広がる

まちづくりに携わることで、自ら町の歴史・文化・伝統などを再認識し、気付き、発見を与えてくれます。

〈入会資格〉

年齢が20歳から39歳までの青年（男女問いません）であり、青年会議所のメンバーとして人格・品位ともに優れていること。国籍は問いません。